

# 脊椎固定術における 術後深部感染発生率

## 1.3 %

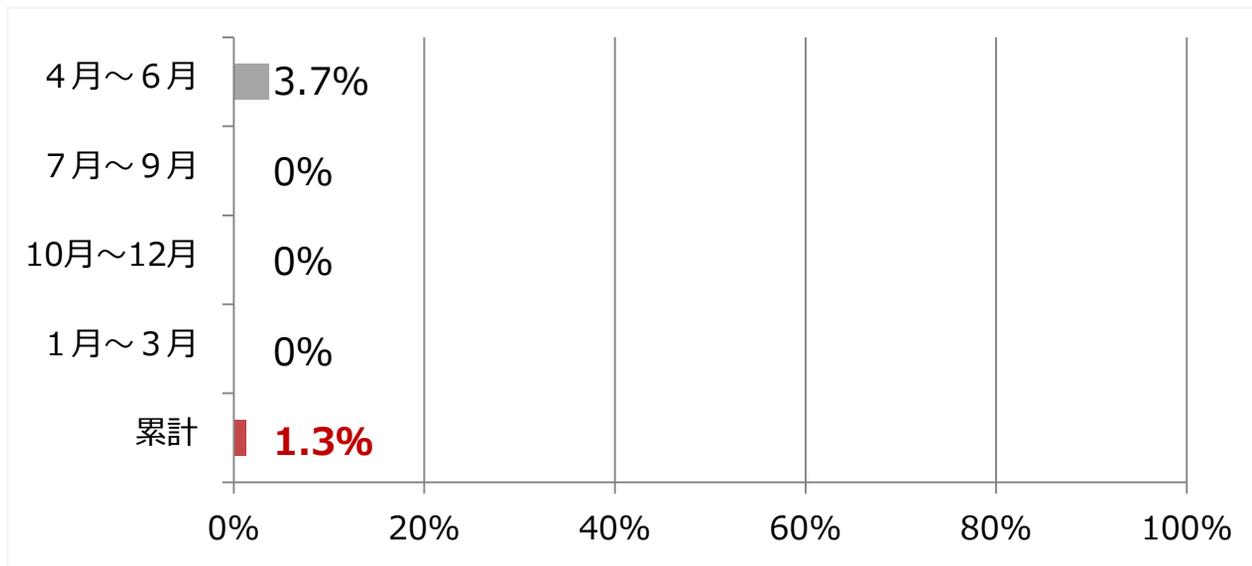
(平成31年4月～令和2年3月)

### 指標の説明

手術を行った箇所に深部感染が発生すると、治療に難渋し、患者側・医療従事者側双方にとって身体的・精神的負担がかかるだけでなく、入院期間が延長し医療費の増大にもつながります。特にインプラント（体内に埋め込まれる金属器具）を用いる脊椎固定術における感染は難治性であり、その予防と対策が重要となります。

本項では当該手術の入院期間中に発症した術後深部感染発生率を算出し提示しています。

(対象症例数：79例)



### 値の算出方法

(当該手術の入院期間中に発症した術後深部感染患者数※1) / (当該手術を施行された患者数※2) × 100 (%)

※1…創部表層のみの感染は除外

※2…局所感染の既往のある患者に対する手術は除外

### 考察

今回の調査では対象症例79例に対して1例（1.3%）に術後深部感染を認めました。本症例の感染に対する危険因子としては肥満が挙げられました。このような内因性危険因子（ほかには糖尿病や腎不全、肝硬変など）を有する症例だけでなく、そうでない症例に対しても、より一層の術中・術後感染対策・管理を行い、発生率ゼロを目指してまいります。